



平成25事業年度に係る業務の実績に関する報告ヒアリング資料

平成 26 年 8 月

国立大学法人 群馬大学

I. 特に重点的に取り組んだ事項

教育

企業等との連携授業 《実績報告書P.4》

社会情報学部において、キャリア教育科目を拡充

「社会に学ぶ」: インターンシップ・講演会・セミナー等を組み合わせ、最長4年次後期まで長期間かけて履修

「仕事現場を知る」: 企業等の協力を得て実施

- | | |
|---------------|-----------|
| A 現代金融システム論 | [東和銀行] |
| B マスコミ論 | [上毛新聞] |
| C 情報通信ネットワーク論 | [NTTグループ] |
| D 地域企業経営論 | [前橋商工会議所] |

受講生アンケートの結果、95%が「職業観の形成」に役だったと回答。

ポストドクター・キャリア開発事業 《実績報告書P.5》

学部生からポストドクターを対象に一貫したキャリア教育・就職支援システムの構築、長期(3ヶ月以上)インターンシップの支援

〈平成25年度の取組み〉

企業での実践活動対応

- ・MOT講座・企画演習・自己表現スキル講座の実施
- ・外部機関を対象とした公開シンポジウムの開催

当初の目標を上回る成果

博士人材インターンシップ受入企業 91社

当該年度就職者 6名

(当初目標:50社・5名)

〈参考〉

中間評価において、「着実に成果が出ている」として**S評価**を獲得

研究

未来先端研究機構

《実績報告書P.14》

本学の強みである**重粒子線研究プロジェクト**を核とした**統合腫瘍学**と**生体調節研究所**を核とした**内分泌代謝学**の二つを柱とした研究を推進することとした。

なお、当該機構は国内外から優秀な研究者を招へいするとともに、**海外研究機関(ハーバード大学等)の研究室を設置し、真にグローバルな環境下での先端研究を推進する。**

社会貢献

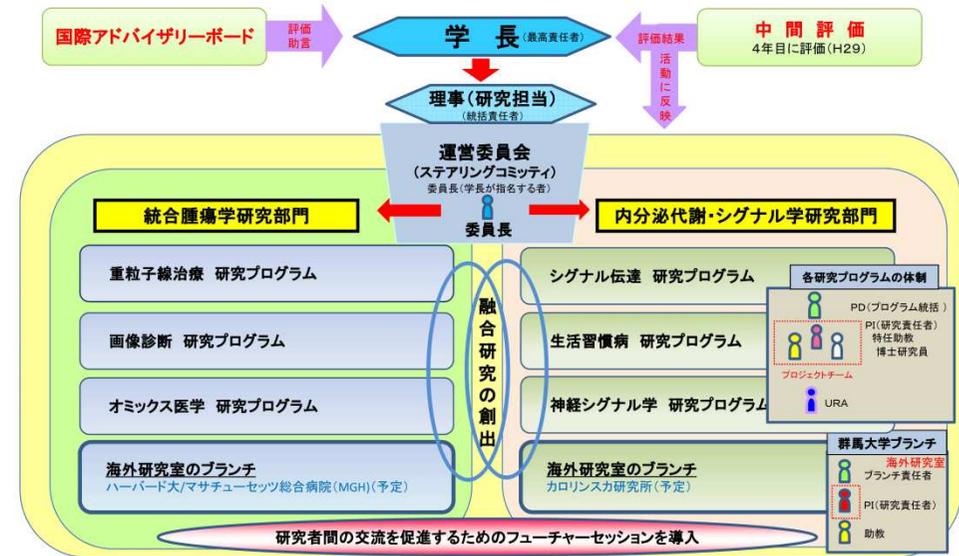
WHO collaborating centreに指定

《実績報告書P.6》

保健学研究科における**チーム医療の普及**と**研究の取組**が評価され、**保健人材育成分野では日本で唯一「WHO collaborating centre」**として指定を受けた。

多職種連携教育研究研修センター(平成25年7月22日設置)を中心に活動

- ・チーム医療の普及
- ・保健人材育成のための世界的ネットワークの推進
- ・アジア地域におけるトレーニングコースの開設



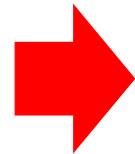
国際交流

学生海外派遣支援事業

《実績報告書P.6～P.7》

国際化基本計画の策定(平成25年10月23日)

〈海外派遣・留学推進の取組み〉
 海外派遣プログラムの充実・単位化
 海外派遣奨励金制度の充実
 海外留学フェアの開催による留学意欲の促進



学生の海外留学者が大幅に増加

〈日本学生支援機構プログラムの採択者を含め、
前年比約3倍の学生を派遣〉

- 主な派遣プログラム -
- ・協定校派遣交換留学プログラム(フィレンツェ大学ほか)
- ・英語研修プログラム(サンディエゴ州立大学ほか)

附属病院

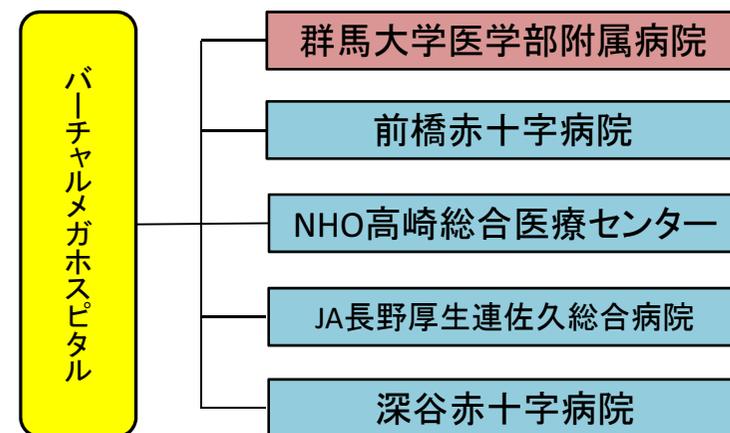
臨床研究中核病院

《実績報告書P.8》

臨床エビデンスを構築する 日本発革新的診断治療法開発

症例集積性向上のため、「前橋・さいたまコア5治験病院(バーチャルメガホスピタル)」等の臨床研究・治験ネットワークを構築した。

なお、バーチャルメガホスピタルには、ウェブ会議共同IRB、(治験審査委員会)中央治験事務局、リモートモニタリングセンターを設置し、治験に係る一連の業務をひとつのサイトで行えるワン・ストップ・サービスを実現する。



II. 「今後の国立大学の機能強化に向けての考え方」を踏まえた取組み状況



教員組織の一元化

《実績報告書P.10》

執行役員会議等による
ガバナンス機能の強化

《実績報告書P.10》

人的リソースを集約

部局ごとに定員管理していた部局制を廃止し、すべての教員は分野等の区別なく「**学術研究院**」に所属



特色の強化・重点化等

柔軟な人的配置が可能となり、大学の機能強化へ繋げる

部局間の調整を主眼としていた「大学運営会議」を廃止し、学長、理事及び学長が指名する執行役員による「**執行役員会議**」を立ち上げた。執行役員は学長が直接指名し、会議は所属する組織の利益代表的な観点にとられることなく議論する場とし、機動的な大学運営の要としていくこととした。

また、教育研究評議会や教授会の審議事項を見直し、役員会等を中心とした運営体制を明確化した。

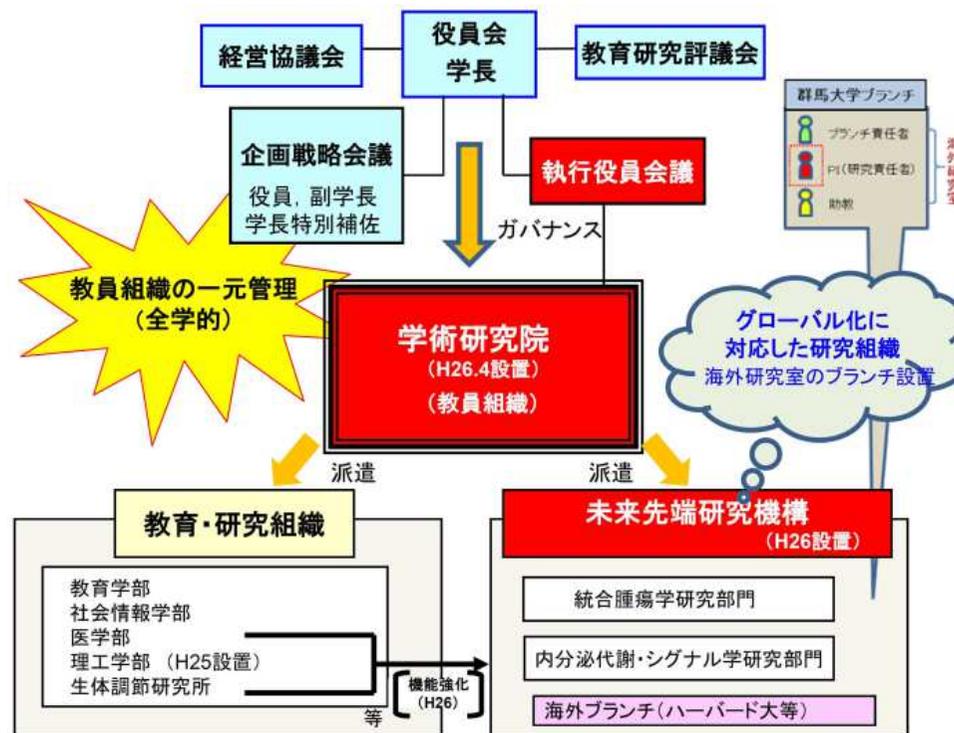
未来先端研究機構

《実績報告書P.14》

強みの伸長、グローバル化

教員組織を一元化した「学術研究院」からの人的リソースを活用し、本学の強みである研究を推進することとした。

なお、当該機構は国内外から優秀な研究者を招へいするとともに、海外研究機関の研究室を設置し、真にグローバルな環境下での先端研究を推進する。





群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

IV. 戦略的・意欲的な計画の取組状況 ①

重粒子線治療研究の推進

《実績報告書P.12》

マイクロサージェリー治療技術開発

専用実験ポートの微動を0.5mm以下に抑える技術を開発した。これにより、ビームスポットの大きさを昨年達成した1.4mm以下に縮小可能となることが期待される。

コンプトンカメラの開発研究

多核種モニタリングによる病変部位の精密測定を可能とする研究において、臨床試験に必要な基礎データをラットによる実験から取得した。

生物効果に関する基礎データの取得

腸管に対して適切な分割照射法の基礎データを取得した。

グローバルリーダーの養成

《実績報告書P.13》

大学院医学系研究科医科学専攻博士課程「重粒子線医工学グローバルリーダー養成コース」に新たに6名を受け入れ、履修生は合計12名となった。

履修生に国際的な発表の場を経験させるため、「教育研究セミナー」、「国際シンポジウム」を開催した。

また、教育研究環境の整備やパンフレット及びウェブサイトを作成を行った。

先進医療の推進

《実績報告書P.13》

重粒子線治療対象疾患の拡大

去勢抵抗性前立腺癌、局所進行肺癌、局所進行子宮頸癌、膵臓癌、再照射、難治性悪性腫瘍などの新規プロトコルを新たに開始した。

集学的治療の実施、3次元積層照射法の技術的な改善

積層照射法:頭頸部領域で皮膚炎の反応が軽減

外国人患者受け入れ体制の整備

委託業者(コーディネート会社)を経由し、10人の外国人患者を受け入れた。

重粒子線治療の研修を受け入れ

九州国際重粒子線がん治療センターほか

上記の取組等により、496名の治療を行い、年間450例の治療目標を達成した。(前年比181名の増)

IV. 戦略的・意欲的な計画の取組状況 ②

未来先端研究機構

研究担当理事を中心に、関係者による検討を行い、以下のとおり取り組んだ。

- ・海外研究機関との調整
- ・設置関連規程の整備
- ・研究環境の整備(研究室の改修等)
- ・事務組織の整備 等

学術研究院

平成26年 4月 1日設置

年俸制の導入

平成26年 4月 1日創設



指摘事項への対応状況 (個人情報保護にかかるリスクマネジメント)

全学的な取組

《実績報告書P.32》

- ・教職員に対し、個人情報の適正な管理について、通知による周知を行った。
- ・「組織の危機管理について」講演会を開催し、個人情報の保護と危機管理についての理解を深めた。
- ・更に、「個人情報管理セミナー」を開催し、保有個人情報の取り扱いについて理解を深め、個人情報の保護にかかる意識を高めた。

附属病院の取組

《実績報告書P.32》

- 指摘を受けた「附属病院」においては、独自の取組みとして、次の取組みを行った。
- ・新規採用職員研修において、個人情報の取扱いについて講義
 - ・患者情報を故意にインターネット上に流出させた非常勤医師を懲戒解雇した。この処分について各種院内会議に報告するとともに、改めて注意喚起を行った。
 - ・院内各種会議において、学生指導に際しても、個人情報などの守秘義務に関する教育を実施するよう周知した。